

「緑と市民ネットワークの会」は、荒木龍昇議員（緑の党グリーンズジャパン）と森あや子議員（ふくおか市民政治ネットワーク）による統一会派です。

緑と市民ネットワークの会



議会報告ニュース

〔第4号〕

メール midoritonet@gmail.com / 公式サイト <http://midoritonet.info>

発行：緑と市民ネットワークの会 / 〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 福岡市役所内 / TEL.092-711-4875 / FAX.092-733-5881



「市民がもっと
政治に参画できる仕組みを」

特別対談

本当に議会改革は 進んでいるのか？



「年額1,400万円の
議員報酬は下げるべき」

—— 昨年から議会改革調査特別委員会が始まりましたが、改革は進んでいるのでしょうか？

【森】委員会での請願審査は公開されるようになりましたが、それ以外はほとんど進んでいません。いま議論が分かれているのは、委員会の会議録に発言者名を記載するかどうかです。「記載をするなら、発言時間や回数を制限すべき」と言って、改革に後ろ向きな会派もあります。—— そもそも議員は議会で発言するのが仕事ですよ。「議員報酬が高すぎる」「議員が多すぎる」という市民の声があります。どう考えていますか？

【森】政治活動にお金はかかりますが、そのために政務活動費があり、また議会費を使って視察調査に行くこともできます。政務活動費の領収証は公開ですが、自由に使える議員報酬は下げるべきです。特別委員会では常任委員会のインターネット中継をするかどうか議論になっていますが、議員報酬を削減してこういった費用などに充てるべきです。

【荒木】同感です。また定数については、減らすと多様な市民の声を反映させにくくなるという問題があり、報酬の削減額に収まる範囲内で定数を増やすというのも一案だと思います。

ます。ただ、議員がしっかり仕事をするようにならないと、市民の皆さんに納得していただくのは難しいと思います。

—— よく請願の紹介議員になっていますが、それはなぜですか？

【荒木】市民の権利を保障したいと考えているからです。請願は憲法で保障された権利です。内容が公序良俗に反しない限り紹介議員となろうと思っています。また、請願に限らず、市民がもっと政治に参画できる仕組みを作っていきたいと考えています。

—— 福岡市議会では、請願を出してもほとんど採決がされず、継続審査となるケースがほとんどだそうですか？

【森】継続審査の実態は「たな晒し」です。採決をした場合、不採決になる可能性が高い請願が多く、「不採決になるよりも継続審査のほうがまし」という意見もあるようですが、私たちは原則、採決すべきだと考えています。

【荒木】何より重要なことは、議員間の討論を活発にして、しっかり議論を尽くすことです。市民の皆さんにもっと議会に関心を持ってもらえるように改革していきます。

皆さまの声が届く議会づくりを目指しています。

- ・ぜひ、市政に関するご意見や、日頃の生活の中でお気づきのことなどお聞かせください。
- ・2015年の議会報告書(無料)を希望される方は、ご連絡ください。

あらしき事務所 ☎ 092-862-8980

「あらしき龍昇」公式ウェブサイト <http://www.araki-jp.com/>

— このニュースは、議員活動の一環として、税金から賄われる「政務活動費」を用い発行しています —



◆ 奪いあう社会から分かちあう社会へ 緑の党グリーンズジャパン

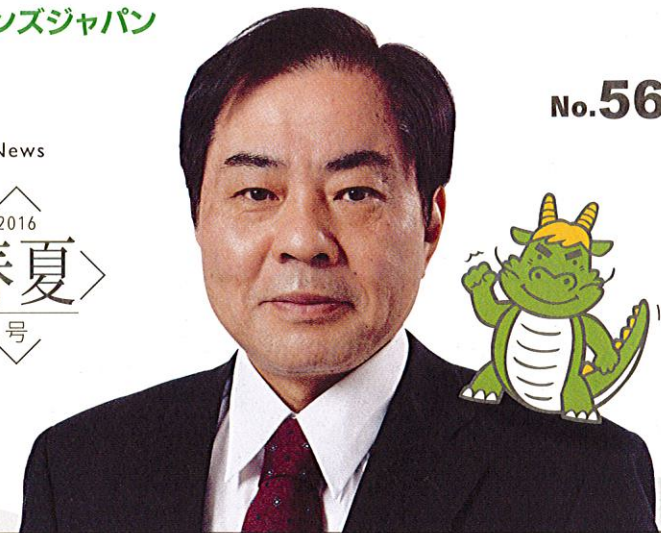
あらしき ニュース

Ryusho Araki News

2016
〈春夏〉
号

緑の党
グリーンズジャパン

発行：福岡市議会議員 荒木龍昇
〒814-0033 福岡市早良区有田5-17-7
TEL.092-862-8980 / FAX.092-862-8985
メール f-lopas@hf.rim.or.jp



No.56



福岡市 2016年度 予算

① 2015年税収は過去最高 ～なお厳しい財政状況～

2015年度は人口増によって市民税が増え、企業収益の改善によって法人市民税も増加。過去最高の税収となりました。2016年も引き続き税収が増える見通しで予算を組んでいます。借金の残高は2兆3882億円(2016年度末)、市民一人あたり158万円と、政令市では大阪市に次いで2番目の多さです。福祉や医療への支出増に加え、道路や橋、上下水道、公共施設の更新など将来的に費用がかかるため、依然厳しい財政状況が続いています。

② 安倍政権の“人気取り施策”、 福岡市にも影響!?

7月の参議院選挙を前に安倍政権は「成長の果実を国民に」として“人気取り”の施策を行っています。それに呼応するように高島市長も「成長の果実を市民に」と予算を編成。就学前児童の教育・保育給付金46億円増、障がい児施設給付金11億円増など必要な施策もありますが、年金生活者等支援臨時交付金として低収入年金受給者対象に一人3万円を交付するという“バラマキ”施策もあります。これらは国の交付金があるからできる施策であって、福岡市自身が“開発優先”の政策を改めて、市民生活優先の予算にしようという考えがないのは問題です。

③ 満足度50%以下 ～子育て・教育、福祉、雇用～

「市政に関する意識調査」によると自然環境や買い物の利便性、食などでは満足度は高い数値が出ている一方、子育てや教育、福祉、雇用についての満足度は50%程度ないし50%以下と低くなっています。高島市長は都市高速の延伸やウォーターフロント開発など、開発優先の“都市膨張”政策を続けていますが、経済成長すればやがて市民にもそのおこぼれが回り生活がよくなるという発想ではなく、市民の生活に直結する施策に重点をおくべきです。

アンケートにご協力ください。
いただいたご意見は議会活動のなかで参考にさせていただきます。

あてはまるものに「○印」をつけてください。

Q1. 議員に望むことは何ですか？

- ① 市政のチェック ② 政策の提案 ③ 市民の声を議会に届ける
④ 生活相談 ⑤ その他 ()

Q2. 自治体の議会を身近に感じられないのはなぜですか？

- ① いつ議会が開かれているのか分からない (複数回答可)
② 傍聴に行くことがない
③ 何が話し合われているのか分からない
④ 議員間の討論がない
⑤ 議会では何も変わらないと思う(行政の追認しかしないから)
⑥ 自治体議会よりも国会のほうが重要だと思う
⑦ 知っている議員がいない
⑧ その他 ()

Q3. 議員報酬(年間1400万円以上)についてどう思いますか？

- ① 高すぎる・減らすべき
② 今の仕事ぶりなら高すぎる・しっかり仕事をすれば妥当
③ 少なすぎる・増やすべき

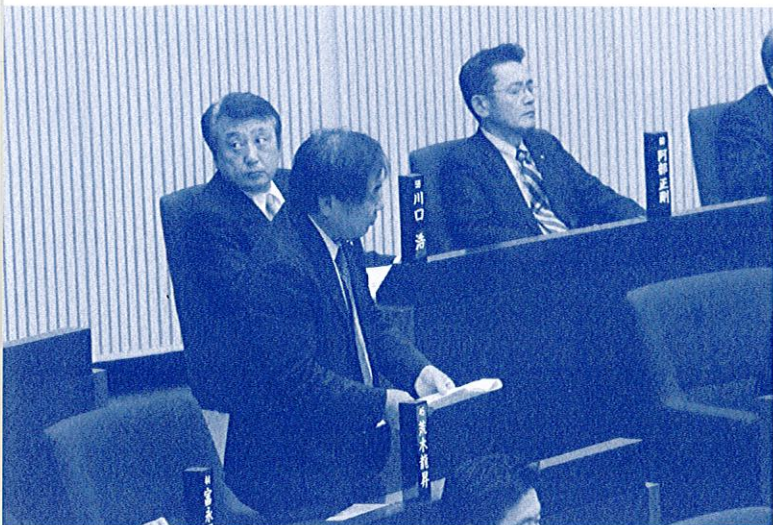
Q4. 議員定数(62人)についてどう考えますか？

- ① 多すぎる ② 妥当 ③ 少なすぎる

Q5. いまの福岡市政で問題だと思うのは何ですか？(自由記述)

()

内ページにつづく



④アベノミクス破綻。いまこそ福祉の増進を！

アベノミクスによって、年金切り下げ、医療・介護保険の負担増など国民生活が一段と厳しくなっています。また、子どもや若者、女性の貧困問題は、市民の暮らしが足下から崩れていく状況を生み出します。持続可能な経済が成り立つためには、格差社会や孤立社会の是正、福祉の充実などが重要です。いまこそ地方自治体の本旨である「住民の福祉の増進を図る」ための市政運営をすべきです。

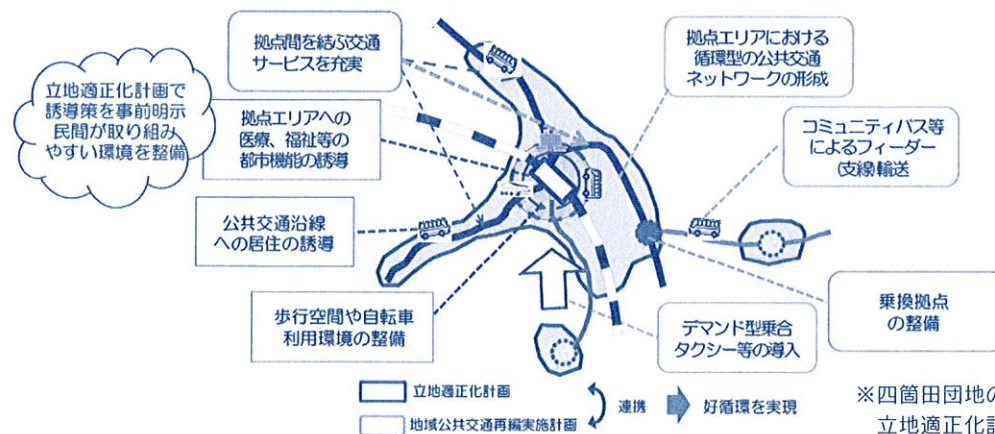
「都市の成長」だけでは「生活の質」は向上しない！ 交通ネットワークと都市基盤の適正配置を！

2025年、福岡市は 「4人に1人」が高齢者

人口が増え続けている福岡市ですが、いま増えているのは65歳以上の高齢者で、労働力人口は微増です。福岡市の高齢化率は、2015年で21.1%、団塊世代が75才以上になる2025年は24.8%と推計されています。今後、東京をはじめ福岡市など大都市部で75歳以上人口が急速に増えていきます。

「地域包括ケアシステム」とは？

人生の終わりの日まで、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、国は住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築し、在宅医療や在宅介護を進めようとしています。福岡市でも地域包括支援センター（いきいき支援センター）を中心に中学校区規模の「地域ケア会議」を設置し、医療機関や介護事業者、地域が連携しながら、高齢者への支援の充実などを進めています。



暮らしに必要な“機能”と “交通ネットワーク”の適正配置を！

自分らしい暮らしを最後まで続けるには、公共施設やお店、病院や介護施設などの都市機能が適正に配置され、移動手段が確保されていなければなりません。いま国では「立地適正化計画」という制度を作り、(1)都市機能を拠点地域に誘導し、(2)拠点地域と生活の場をつなぐ交通ネットワークを構築することで、生活の質の維持・向上を図ろうとしています。福岡市もこの制度を活用し、超高齢社会・人口減少社会に備えていく必要があります。

地域の状況に応じた 交通ネットワークを！

移動手段の確保には、鉄道やバスなどの基幹公共交通だけでなく、拠点と生活の場（自宅）をつなぐ交通が重要になります。

福岡市内でも交通が不便な地域で、地域住民が一体となった社会実験や試行運転が始まっています（東区美和台や西区橋本地区など）。

全国の例としては、北九州市八幡東区の枝光地区で、ジャンボタクシーが商店街と居住地を結ぶ乗り合いタクシーとして運行されています。ジャンボタクシーを使うことでバスでは通れないような路地も通ることができます。また、八幡西区ではタクシー定期券を利用。デマンド（使うときに予約する）によるバスの運行やタクシーの乗り合いを実施している地域もあります。ライドシェア（自家用車による有料輸送）という“究極の白タク”に関しては、私は安全性などさまざまな課題があると考えています。

福岡市でも地域の特性に合わせた多様な交通システムを検討する必要があります。地域住民の一体的な取り組みとともに、鉄道やバスだけでなく、タクシーも含めてさまざまな交通事業者にも協力を仰いでいかなければなりません。

早良区南部の交通問題を考える懇談会を行います

◎日時：5月29日（日）14時～16時 ◎場所：早良公民館 ◎問合せ：862-8980 ◎参加費無料 ◎早良校区以外の方もご参加いただけます。
※公民館の予約開始日の関係上、3月25日現在、確定ではありません。事務所までお問合せください。

是々非々で 高島市政をチェック！ 2月議会・3月議会 主な議案への賛否と主張

◆総合体育館の民間委託(PFI)契約について(議案25号)

反対 PFI方式を用いた民間委託契約の落札価格が、市の積算額よりも高いことが答弁で明らかになりました。PFIとは、効率的・効果的な公共サービスを提供するため、公共施設などの設計・建設・維持管理・運営に民間の資金とノウハウを活用して行う手法ですが、これ自体に問題が多いと考えています。

◆都市高の空港・人工島への延伸について(議案29号・110号)

反対 「あったら便利」「なくても困らない」事業にこれ以上税金を使うべきではありません。空港への延伸が約500億円、人工島へは約300億円、時間短縮の効果はほんのわずかです。

◆子どもの通院費の助成について(議案78号)

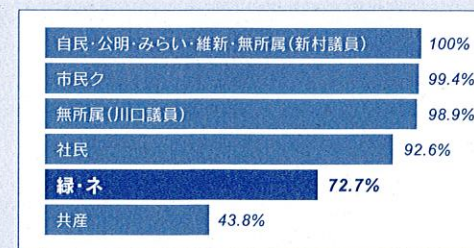
反対 助成の対象が小学校6年生までに拡大されましたが、その代わりに3才児以上の通院費の一部を自己負担してもらうというものです（現在未就学児は負担なし）。しかし自己負担による経費削減は4.4億円で、無駄な公共事業をストップすれば十分に捻出できる金額です。高校生まで入院費も通院費も助成している自治体もあり、福岡市も中学3年生まで通院費を助成すべきです。共産党・維新の会・緑とネットが共同で中学3年生まで負担なしの修正案を提出しましたが、否決されました。

◆立地交付金に関する条例改正について(議案85号)

反対 人工島・香椎パークポート・九大周辺地区だけ特別に「上限30億円」としていたものを、他地区と同じ「上限10億円」に戻し、代わりに事業者が正規雇用を増やせば、それに応じて交付金を増やすというのですが、立地交付金自体を見直す必要があります。過去4年間で230億円もの交付金が人工島に使われました。

◆景観条例の改正および広告条例の改正について(議案89号・90号)

賛成 景観は公共物です。国は景観法を定め、過去の景観の保全および将来の景観の形成のための規制ができるようになっていきます。今回の条例改正は、まだまだ不十分ではありますが、一歩前進しました。



2015年5月～12月の 市長が提案した176議案に 対する各会派・議員の 賛成率(意見書や請願は除く)

福岡市議会のホームページから「議案・会議結果・会議録」というページに入ると、具体的にどの議案に賛成・反対をしているかご覧いただけます。

料金受取人払郵便

早良局
承認
1055

差出有効期間
平成28年12月
31日まで

(切手を貼らずに
投函できます。)

8 1 4 8 7 9 0

福岡市議会議員
あらき龍昇行

福岡市早良区有田5-17-7

〈ご協力ありがとうございました。よろしければ下記もご記入ください〉

お名前 電話番号

〒 住所

メールアドレス 年齢 歳代